

731部隊の史実を語り継ぐ連続学習会・第24回

「日本の秘密戦と 731 部隊 ：その記憶を発掘し継承する意義」

731部隊元隊員の証言、パネル展示検討へ飯田市教委、客観性担保を条件に
飯田市新聞 デジタル 4/8/21 06:02



731部隊の歴史を継承する意義について話す山田教授(右奥)=20日、飯田市

飯田市平和祈念館で、戦時中に旧満州(中国東北部)を拠点に細菌兵器開発を進めた関東軍防疫給水部(731部隊)の県内出身元隊員4人の証言パネル展示が見送られた問題で、展示を求める「飯田市平和祈念館を考える会」は20日、部隊の歴史を継承する意義を考える学習会を同市で開いた。一方、市教育委員会は19日夜、元隊員が証言した状況の客観性が担保されるなどの条件を満たせば、証言内容の展示を検討する方針を示した。証言に至った背景や思いが伝わる内容とすることなども条件とした。学習会では日本軍による秘密戦に詳しい山田朗(あきら)・明治大教授(67)＝日本近現代史＝が講演。731部隊による被害者はアジア各地にいるため、部隊について「日本人が知らないとしたら歴史認識にギャップが生じる」と述べた。山田教授は、部隊長だった石井四郎が戦後、戦犯としての免責と引き換えに、人体実験データを米国に提供したことに触れ、「真実が隠蔽(いんべい)され、医の倫理の発展が阻害されてきた」と指摘した。同館の証言パネル展示を巡っては、2022年5月の開館に合わせ、市民有志でつくる市平和資料収集委員会が元隊員の証言をまとめたパネルを作り、展示を要望。市教委は731部隊を巡る事実関係が確定していないなどとして展示を見送り、23年2月から地元有識者らの検討委員会で証言の扱いを議論してきた。市教委は19日の検討委で、パネルは作った側の主観が入り、証言状況の再検証ができないなどの理由で、改めて展示を見送る方針を表明。一方で「証言は大変貴重」とし、映像や音声で検証できるなど口述資料としての客観性が担保されることなどを条件に展示を検討するとした。証言者が亡くなっている場合には、遺族の同意も前提にする。熊谷邦千加教育長は終了後の取材に「公の施設として、どんな展示が可能なかを踏まえ、検討したい」と述べた。考える会代表の唐沢慶治さん(80)は20日の取材に、検討委で証言展示の方向性が示されたことについて「一歩前進だ。どう工夫して展示できるか、お互いに知恵を絞りたい」と話した。

オンライン講演(ZOOM)

お話：講師 山田 朗さん
(明治大学教授)

(この講演は、3月20日の「飯田市平和祈念館を考える会」第6回目の学習会で講演された録画です。)

2024年4月12日(金)

18:00～20:00

18:00～19:30 録画講演

19:30～20:00 山田先生交えて質疑応答
※「飯田市平和祈念館を考える会」の事務局長の原英章さんも参加予定)

※zoom には 17:45 から入室可能

参加費無料

申し込み希望は

nobu.goi@gmail.com (五井信治) まで

※定員 100 人で締め切らせていただきます。

主 催：731ネットワーク